

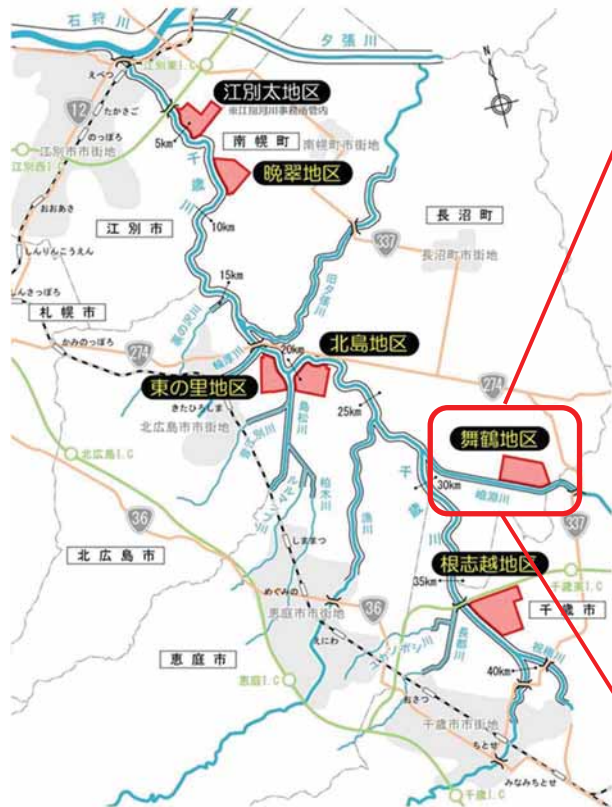
舞鶴遊水地を軸とした 「タンチョウも住めるまちづくり」について

目次

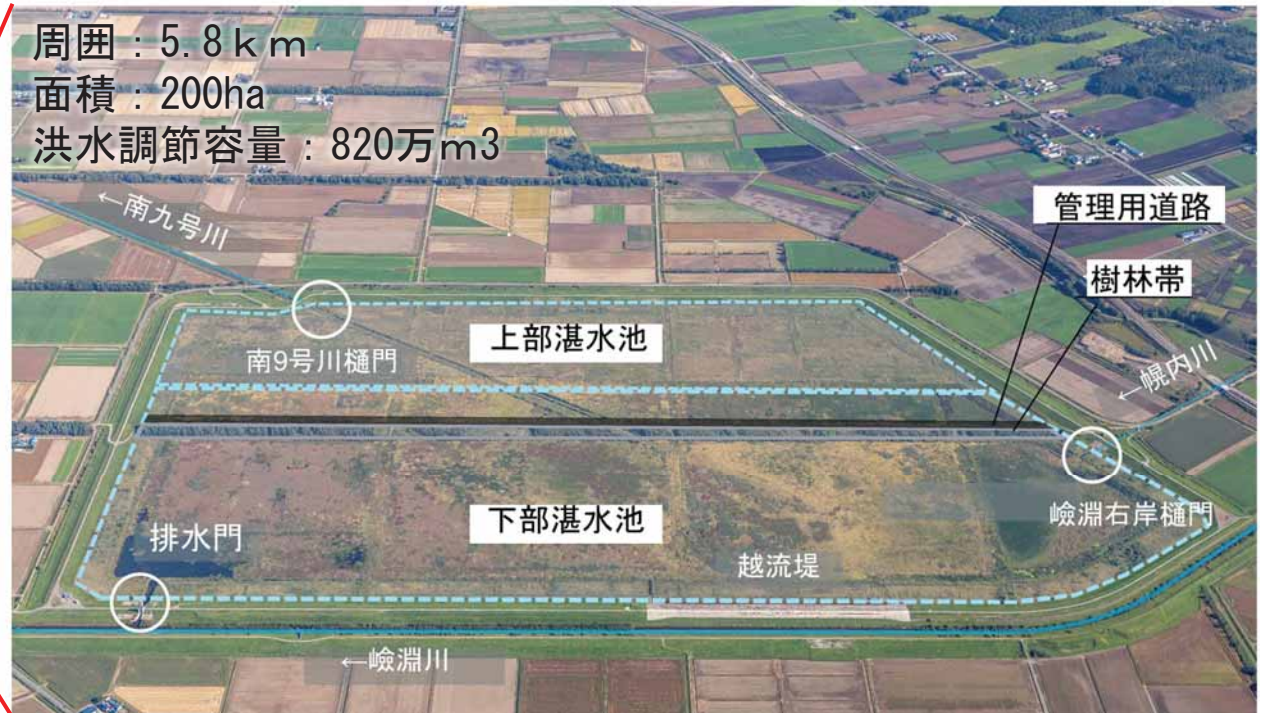
- 背景
 - 1.遊水地群の整備
 - 2.タンチョウの飛来
 - 3.タンチョウの繁殖
- 取り組みの概要
 - 1.環境調査・生息環境整備
 - (1)植物調査
 - (2)動物調査
 - (3)餌資源量調査
 - (4)湧水調査
 - (5)微高地の造成
 - 2.地域づくり・普及啓発・地域産業への寄与

1. 遊水地群の整備

- 千歳川流域の治水対策として洪水調節のための遊水地群を整備
- 4市2町の6箇所で開催千歳川遊水地群の整備を平成20年度から実施
- 令和2年度よりすべての遊水地の供用を開始
- 舞鶴遊水地は平成21年度より工事に着手し平成27年度より供用開始



千歳川遊水地群 位置図



舞鶴遊水地（令和元年9月撮影）

2. タンチョウの飛来

- ・ 舞鶴遊水地の周辺はかつてタンチョウやマナヅルの繁殖地であったがその後の開拓により姿を消した
- ・ 平成24年度の工事中からタンチョウが飛来



舞鶴遊水地（平成28年3月）



舞鶴遊水地（令和元年2月）

タンチョウを呼び戻す取り組みのため

- ・ 「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」（平成26年度）
- ・ 「長沼町タンチョウとの共生検討会議」（平成26年度）
- ・ 「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」（平成28年度）が発足

3. タンチョウの繁殖

- ・ 令和2年3月に平成30年度より飛来していたペアの交尾が確認
- ・ タンチョウへの影響を配慮し遊水地への立ち入りを制限
- ・ 4月に営巣、5月には雛のふ化が確認

空知管内でのタンチョウの雛の誕生はおよそ100年ぶりであり、
人工的に作られた施設での繁殖は世界的にも珍しい事例である

- ・ 8月の下旬には雛の飛翔が確認



タンチョウの雛（令和2年6月14日）



飛翔するタンチョウ（令和2年8月19日）写真右側が雛

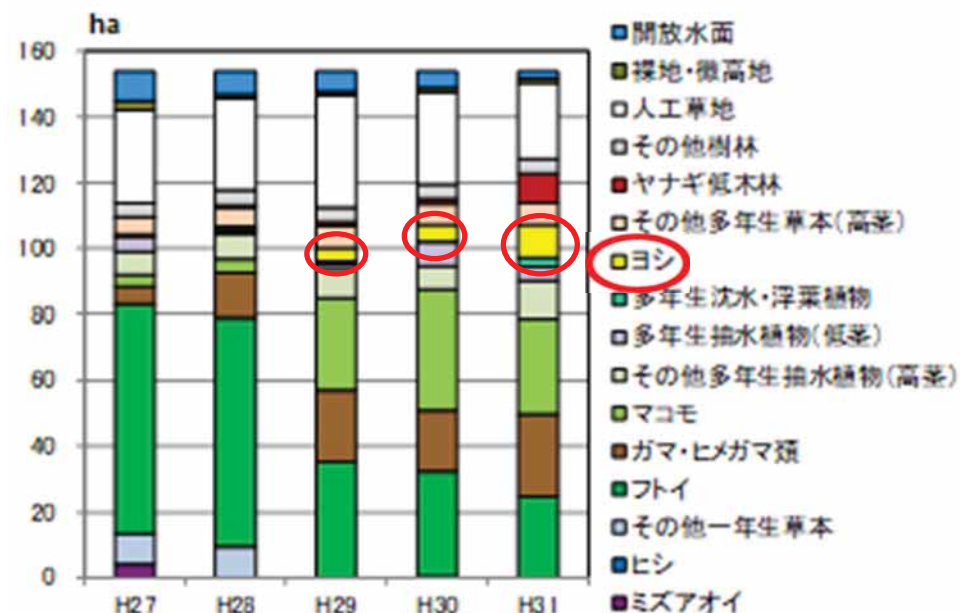
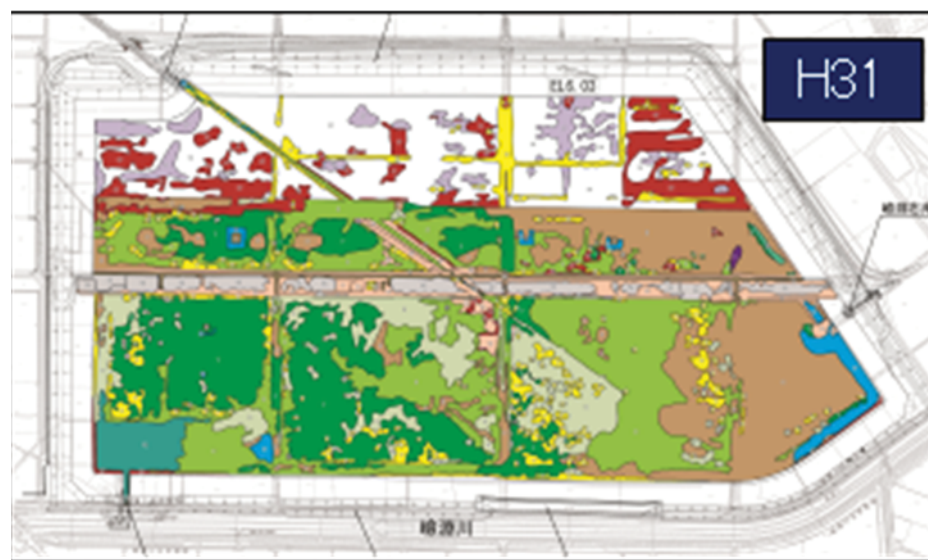
1.環境調査・生息環境整備

千歳川河川事務所では工事着手以降継続して環境調査を実施し検討協議会での議論や生息環境整備に反映

作業時にタンチョウへの影響がないかモニタリングを実施

(1) 植物調査

- ・平成23年度から遊水地内の植物群落を調査し遷移を記録
- ・タンチョウの巣材となるヨシの群落が広がっている



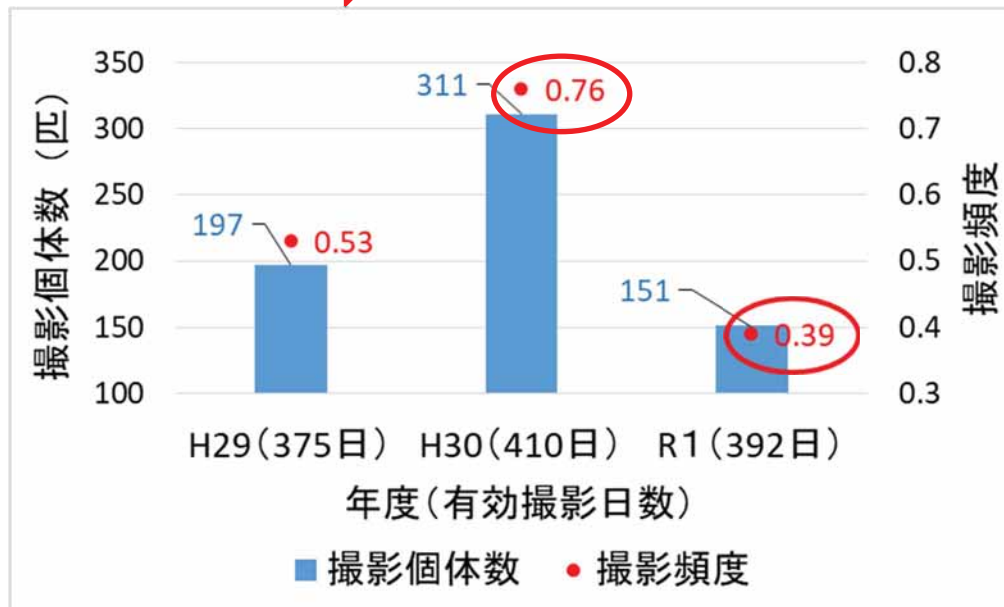
令和元年度の主要植物群落（左）と平成27～令和元年までの植物群落の変化（右）

取り組みの概要

1.環境調査・生息環境整備

(2) 動物調査

- ・平成27, 28年度に両生類・は虫類・哺乳類調査を実施
- ・平成29年度以降は遊水地内のアライグマモニタリングを実施
- ・令和元年度は遊水地内の8カ所に49日間自動撮影カメラを設置
- ・令和元年度のアライグマの撮影頻度は平成30年度と比較して少なくなっている **➡** 捕獲効果が現れた可能性がある



平成29～令和元年度のアライグマモニタリングの経年比較

長沼町によるアライグマ捕獲罠の設置の様子
(令和2年4月)

取り組みの概要

1.環境調査・生息環境整備

(3) 餌資源量調査

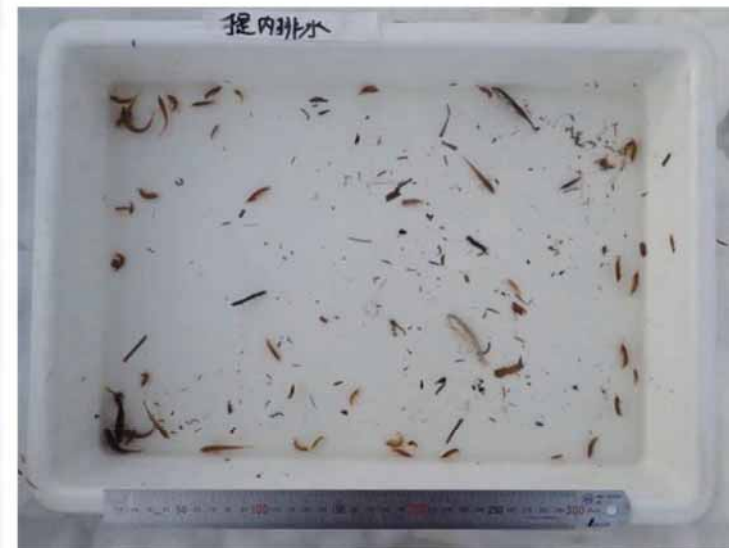
- ・ 調査箇所は不凍水域となっていた嶮淵右岸樋門吐口付近
- ・ たも網を用いて魚類・底生動物など水生生物の捕獲を行い、1地点あたり3人×30分（捕獲量によって最大60分まで延長）

結果

- ・ 嶮淵右岸樋門吐口付近の不凍水域において、冬季でも魚類や水生生物などタンチョウの餌資源となり得る生物が生息していることが確認された



嶮淵右岸樋門



堤内排水

捕獲された魚類や昆虫類(令和2年2月13日)

取り組みの概要

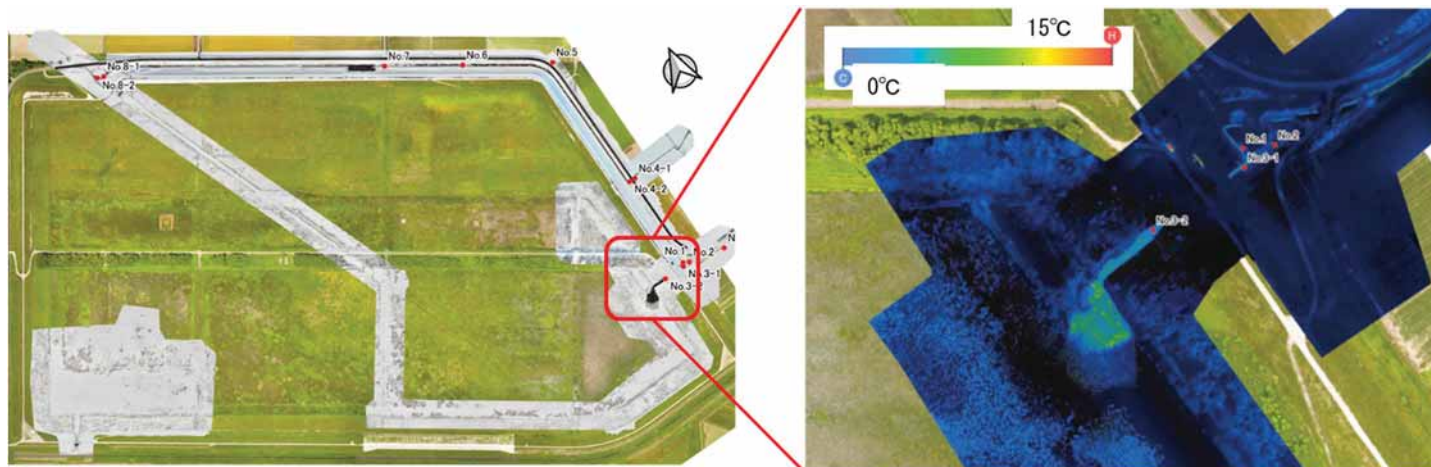
1.環境調査・生息環境整備

(4)不凍水域の湧水調査

- 赤外線サーモグラフィカメラを搭載したUAVによる空撮を行い、遊水地内の水温分布平面図を作成（11月下旬～3月下旬のうち計3回）し冬季の不凍水域となりうる湧水箇所の推定

結果

- 遊水地内に湧水は確認されなかったが赤枠内に示す嶮淵右岸樋門付近に凍結は見られなかった
- 今回の結果からタンチョウのつがいが越冬可能かどうかを判断することは出来ないものの、今後の生息環境整備を検討する上での指標となりうる



可視図（モザイク図）

サーモグラフィ

UAVによって撮影した遊水地（令和2年2月19日）

1.環境調査・生息環境整備

(5) 微高地の造成

- ・平成29年度の検討協議会でタンチョウの早期個体定着に向けた営巣環境の創出が決定
- ・繁殖のために水に浸らないドライエリアが必要になる
- ・遊水地内の5カ所に遊水地地盤より盛り上がった微高地を整備した
- ・平成30年度には3カ所に巣材となるヨシを植栽
- ・令和元年度にヨシの植生を調査



微高地ヨシ植栽前（平成30年5月23日）

1.環境調査・生息環境整備

(5) 微高地の造成

- ・3カ所すべてでヨシの定着が確認され、またヨシ以外の植生の回復もみられた
- ・しかし今回タンチョウが営巣したのは過年度からねぐらとしていた箇所であった（巣材はガマと推定）
- ・営巣の決め手となった明確な理由は不明だが、営巣箇所周辺を過年度から利用しており親鳥が安全だと思ったことが要因の一つと考えられる



微高地ヨシ植栽約1年後（令和元年7月8日）



タンチョウの巣（令和2年5月24日）
環境省・一般社団法人タンチョウ研究所

取り組みの概要

2.地域づくり・普及啓発・地域産業への寄与

- ・ 舞鶴遊水地では観察小屋「鳥の駅マオイトー」を設置し環境教育や情報発信の起点にしている



鳥の駅マオイトー

- ・ 長沼町内の小学生や高校生を対象に遊水地内の生物調査などの環境教育を実施



環境学習の様子 鶴居村×長沼町タンチョウ子ども交流ツアー（令和元年8月31日）

取り組みの概要

2.地域づくり・普及啓発・地域産業への寄与

- 普及啓発として注意看板の設置や「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」がボランティアで見回りを実施し観察マナーの理解促進に努めている



- 長沼町内の事業者によるタンチョウモチーフの商品の開発




ちぎりミニ食パン(ぱん工房陽風堂)



日本酒・甘酒夢馬追 (ながめま農業協同組合)



タンチョウソフト (アイスの家)

A photograph of two white cranes with red crowns standing in a lush green field. The cranes are positioned in the center-left of the frame, facing right. The background is filled with dense green foliage and yellow flowers. The lighting is bright, suggesting a sunny day.

北海道開発局では今後も地域や関係機関と連携し、舞鶴遊水地を始め
自然環境に配慮した事業の推進に取り組んでいきます。
ご静聴ありがとうございました